

## 第20回

# 満月の夜開く けいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」

昔から祭りは満月の夜に開かれてきました。“けいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」”は、そんな満月の夜に「文明の未来と人類の幸福」について考える会です。高等研の庭にはゲーテの胸像があります。その視線は「フクシマ」のほうを見やりつつ、近代文明の現状を憂いているかのようではありませんか。

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。ゲーテの胸像はその理念のシンボルです。今宵、ゲーテに立ち返りながら、近代科学文明のあり方を一緒に再考してみませんか。

(2013年8月21日開催の発足会案内より抜粋)

日時： 2015年 **3月5日(木)** 18:00~20:30

場所： **公益財団法人国際高等研究所**

講演： 未来社会をいかに拓くかー未来社会を担う新しい人間像を探るー (Part IV)

## リスク社会を生き抜く日本人の災害文化

講師： **嘉田 由紀子** 先生

### 【講演要旨】

水害多発列島に住まう日本人は、水害被害を最小化して命を守る「洪水織り込み型治水」ともいえる「災害文化」を生み出してきた。しかし、明治以降の近代化の中で、要素還元的な近代科学技術に基づく水量主義的な「河川閉じ込め型治水政策」がひろがり、昭和30年代以降のダム建設政策の技術的根拠となった。日本各地の「災害文化」を研究してきた立場から、滋賀県知事として日本で初めての「ダムに頼らない流域治水政策」をすすめたが、8年かけて県条例が実現するまで、予想以上の政治的抵抗にあった。そこには、「水害リスク」を隠し、一方で「水害をゼロにできる」という思い込みをひろめた政治的パワーの存在があった。今、リスク社会を生き抜くために必要な自然との共生思想の意味と価値を改めて提起したい。

### 【講師略歴】

びわこ成蹊スポーツ大学長、前滋賀県知事。1981年より滋賀県琵琶湖研究所や琵琶湖博物館で日本と世界の湖沼にかかわる環境社会学研究に携わる。京都精華大学人文学部教授を経て、2006年に滋賀県知事に就任し、2期8年をつとめる。著書に『いのちにこだわる政治をしよう!』(風媒社)、『水をめぐる人と自然ー日本と世界の現場からー』(有斐閣選書)などがある。



参加費： **2,000円** (交流・懇談会費用を含む)

定員： **40名** (申し込みが定員を超えた場合は抽選)

申込： 「参加申込書」(裏面)によりお願いいたします

締切： 2015年2月25日(水) 必着

URL： <http://www.iias.or.jp/public/goethe.html>

# 参加申込書

- 下記に必要事項を記入して、FAX 又は郵送でお申し込みください。
- E-mail でのお申し込みの場合は、以下の内容を記載してお申し込みください。
- なお、申込書記載の個人情報は、当会の開催ご案内等を行うために使用させていただきますが、外部に公開することはありません。

◆ お問い合わせ、お申し込み先 ◆

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

公益財団法人国際高等研究所 事業部

けいはんな「ゲーテの会」事務局 (担当：竹島)

E-mail : goethe0828@iias.or.jp FAX : 0774-73-4005

第20回 満月の夜開く けいはんな哲学カフェ 「ゲーテの会」 2015年3月5日(木)開催		
お名前		
ご所属		
部署		
役職		
連絡先	ご住所	
	TEL	FAX :
	E-mail	

## ■ 会場案内

